

御興パレードでは、チームごとにユニフォームを作る。今年は協賛の上野中通り商店街で「はびこれ2001秋冬」と題してユニフォームのコンテストが行われた



上野キャンパスのいたるところで音楽が奏でられ、アートが展示される。写真はすべて2001年度芸術祭実行委員会提供（近藤圭・美術学部油画2年／今関美晴・同学部日本画2年／小島瑞生・同前／安達祥子・油画2年／勝俣由治・日本画2年）



やるな、と思った。楽しむことに本気なのである。

最後にとっておきの伝説を。芸術祭では恋が芽生える。芸術祭で芽生えた恋を我々は芸術マジックと呼ぶ。「何あいつら。芸術マジックなんだ」と。ただし芸術マジックで成就したカップルは早々に別れるというジンクスもある。結婚された卒業生もいるので、個人的には、別れるというジンクスは否定したいと思う。そして芸術祭には必ず雨がふる。しかも雨というよりは嵐がやってくる。三日間の芸術祭のうち二日は残暑がまじく、残り一日と前日は荒れ模様というのがまあ、定番の天気である。この天気はまるで芸術祭そのもの。混沌として。荒々しくいかに曖昧で。これが私たちの祭り。

（としま・まき／美術学部先端芸術表現科三年・前年度芸術祭委員長）

2001年度 芸術祭レポート

上野キャンパスに秋の訪れを告げる、芸大生たちの祭典〈芸術祭〉。
「宇宙リゾート」をテーマにした2001年度芸祭の風景をスナップしてみた



コピーライターの糸井重里氏と5人の学生によるシンポジウム「芸術家はいかにして食うか」



御輿パレードの御輿は、美校（美術学部）・音校（音楽学部）の1年生がひと夏をかけて制作したもの。サンバ隊の先導で、上野界隈を熱気で染めあげていく。今年はデザイン科・作曲科制作の御輿に最優秀賞があたえられた

芸祭伝説

戸島麻貴

芸術祭ではさまざまな伝説が生まれる。

芸祭の幕開けは、美校・音校の1年生による御輿パレードから。上野公園では御輿をかついで暴走する芸大生がちよっとした名物になっている。戦前から続くイベントなのだがとにかく色んなことがあったらしい。パレードのさなか、上野公園の噴水池に全裸でダイビングしたやつがいるというのは学生の間でも、メジャーな話し。サンバ部のカリスマ、バーバラさんは、パレードの先頭で素敵に踊った。彼女と目が合った見物人は踊りの輪の中に拉致されるとか。夜中に酔っばらって上野動物園のペンギンを盗みに行ったというの也有名だ。ペンギンに関してはかわいかったから欲しかったという妙なコメントまで語り継がれている。

話しが脇道にそれた、御輿パレードに戻る。手先の器用な芸大生がひと夏をかけて制作するのだから、その迫力たるや圧巻である。モチーフは見栄えのする想像上の動物、麒麟、獅子、龍であったりディティールの描写の効く悪魔や神々等。その年話題になった人物や出来事を作ったりもする。おもしろいことに、それぞれの科の特性が造形に顕れる。空間における動き。質感や色彩、マテリアル。なるほど名物にもなるわけだ。また、一年生にとって御輿作りは、クラス単位での、はじめての共同作業となる。この御輿制作で各々の人間性が露呈する。あのとさ何かが変わった、と芸大生は口を揃えて言う。芸術祭は毎年違ったテーマをかかげて運営している。今年のテーマは「宇宙リゾート」だった。来るべき宇宙の時代に遅れをとってはならぬと、委員長自らが芸祭の宇宙リゾート化を推進した。前任の私に持ってきてくれた名刺にも「委員長」ではなく宇宙リゾート代表とあった。